

“市民による市民のための映像祭”「東京ビデオフェスティバル2014」応募作品の概況

10代～80代の幅広い年齢層から172作品が集まる

- 60代以上のシニア層(59作品・約50%*)と20代までの若者層(40作品・約34%*)で約8割を超える
- 作品ジャンルはドキュメンタリー作品(約65%)が中心、創作性あるドラマ・アニメ・アートも
- 12月中旬に入賞作品を発表、同日に公開配信をスタート(予定)

特定非営利活動(NPO)法人「市民がつくるTVF」(代表理事:小林はくどう)が主催する「東京ビデオフェスティバル2014」には、国内外から172作品(国内(22都道府県):168作品/海外(タイ):4作品)が寄せられました。

応募作品は今後、「1次審査」を経て、「本審査」(入賞審査、公開審査/トークフォーラム(後述))に入ります。入賞30作品(「優秀作品賞」:10作品、「佳作」:20作品)を決定・発表は12月中旬予定。また同日に入賞作品の公開配信をスタートし、NPOサポーターによる「サポーター賞」の投票受付も行います。

「発表・表彰式/上映会」は2014年1月18日(土)、日本工学院専門学校(東京都大田区)で開催する予定です。今回を象徴する作品に贈られる「ビデオ大賞」(1作品。「優秀作品賞」から選出)は当日、入賞者やビデオファンが集う会場で、審査委員会による公開審査/トークフォーラムを行い、その場で決定・発表します。

■応募者や応募作品ジャンルの傾向等

1. 60代以上のシニア層から59作品(約50%*)、うち45作品が70代以上からの応募～映像制作が生きがいに～
応募作品は、17歳(高校生)から85歳にわたる幅広い年齢層から寄せられました。特に、60代以上から応募は、約半数を占める59作品。さらに、うち70代以上からは40作品となっており、シニア層にとって映像制作が生きがいとなっていることが伺えます。

また、20代までの若者層からも40作品(約34%*)が集まっています。「東京ビデオフェスティバル」の例年の特長でもありますが、今年もシニア層と若者層が応募を二分する結果となりました。

※応募者の年齢層の割合は、年齢確認ができた117作品から算出。(34作品は団体応募のため年齢区分なし、21作品は作者が年齢未申告のため不明)。

2. 応募作品のジャンルはドキュメンタリー作品(約65%)を中心に、ドラマ・アニメ・アートなど多彩
応募作品のジャンルは、ドキュメンタリーが中心で112作品(約65%)。また、創作性のあるドラマ(40作品・約23%)やアニメ/アート等(20作品・約12%)も寄せられています。多様な社会、多彩な作者の存在を反映した結果となりました。

■応募作品の傾向／特徴

1. 「自らの人生を振り返る作品」「家族との絆を深めようとする作品」が主軸を形成

「自らの人生を振り返る」「親子や家族の絆を深めようとする」といった作品が主軸を形成しています。映像を通じた対話や心の動きが表現されており、ビデオの持つコミュニケーションメディアとしての特性が定着していることが伺えます。

2. 市民目線のジャーナリズム作品が成長

ここ近年の最大の特徴として、市民目線のジャーナリズム作品が成長していることが挙げられます。東日本大震災以降、特に顕著な動きとして、被災地でのボランティア活動の記録や被災者との交流、避難所生活の本音、離れて生活する家族の暮らしぶり等を、記録・レポートするにとどめず、作者としての思いを込めてコミュニケーションのあり方を考える“市民メディアとしてのビデオの存在”を生かした作品も出現しています。

3. 改めて平和を思い、震災・戦争等を風化させないという意思をしっかりと表現した作品が目立つ

作品のテーマとして目立ったのは、東日本大震災（9 作品）と広島原爆（2 作品）です。この 11 作品は、当時の映像や資料を集めるとともに、改めて平和に思いを寄せ、決して風化させないという意思がしっかりと表現されています。

4. 神事／祭礼等、地域の文化・伝統の伝承を描いた作品が多く集まる

神事や祭礼等、地域の文化・伝統の伝承を表現した作品も多く集まっています。また、自分たちの地域を知ってもらおうと、地域ぐるみで制作した作品が見られ、地域の有志が取り組んだプロジェクトから、映像を使った情報の発信による豊かなコミュニケーション形成の動きが活発化していることが伺えます。

< 「東京ビデオフェスティバル 2014」審査委員会（50 音順・敬称略） >

■本審査委員（6 名）

大林 宣彦（映画作家）、小林 はくどう（ビデオ作家・成安造形大学客員教授）、
佐藤 博昭（ビデオ作家・日本工学院専門学校講師）、椎名 誠（作家）、
高畑 勲（アニメーション映画監督）、羽仁 進（映画監督）

■ゲスト審査委員（1 名）

村山 匡一郎（映画評論家）

* 作品審査について

作品審査は「1 次審査」を経て、「本審査」（入賞審査、公開審査／トークフォーラム）となります。

なお「1 次審査」は、当 NPO の代表理事 小林はくどう、および同理事 佐藤博昭（ともに本審査委員）が行います。

<「東京ビデオフェスティバル 2014」 今後のスケジュール（予定）>

■入賞 30 作品 発表・公開 : 2013 年 12 月中旬に発表。

同日に公開配信開始（Web 配信）。

*当法人のホームページで発表します。

■発表・表彰式／上映会 : 2014 年 1 月 18 日（土）。

会場：日本工学院専門学校 3 号館・10 階ホール

（住所：東京都大田区西蒲田 5-23-22）

■「ビデオ大賞」決定・発表：上記「発表・表彰式／上映会」にて実施する、審査委員会による公開審査／トークフォーラムを経て、その場で決定・発表。

■「特別賞」発表 : 上記、「発表・表彰式／上映会」にて。

*「特別賞」:「筑紫哲也賞」および「サポーター賞」。

・「筑紫哲也賞」:入賞 30 作品の中からジャーナリスト故筑紫哲也氏のご遺族により選出。

・「サポーター賞」:入賞 30 作品の中から NPO 支援サポーターの投票により決定。

<NPO 法人「市民がつくる TVF」について>

NPO 法人 市民がつくる TVF は、31 年間の歴史を持つ国際的な映像祭「東京ビデオフェスティバル」(TVF/日本ビクター主催・2009 年 3 月閉幕)の精神を継承し、市民有志が集まって結成した団体です（設立：2009 年 11 月）。ビデオ作品の制作や発表機会を通じて、映像によるコミュニケーションの活性化を図る活動を行っています。

<東京ビデオフェスティバルとは>

「東京ビデオフェスティバル」は、ビデオメッセージの伝達と表現力の向上を目的に 1978 年以来、継続開催している映像祭です。当 NPO の主催となって今年で 5 回目を迎え、累計 36 回目の開催となります。

<「東京ビデオフェスティバル」公式ホームページ（NPO ホームページ）URL>

<http://tvf2010.org/>

— <本件に関する報道関係窓口／一般のお問い合わせ先> —

特定非営利活動法人 市民がつくる TVF 事務局長 牛頭 進（ごず すずむ）

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-16-2 こらぼ大森 2F

TEL 03-6404-6613/FAX 03-6404-6614/E-mail info@tvf2010.org